

## マスクあれこれ

ひと口にマスクといっても、ガーゼや布に始まり医療用のサージカルマスク、N95・NK95 などの高機能マスクと様々です。変わったところでは、コロナ対策と同時にビールも味わえる**Mixer Mask** (写真右) というものもあります(‘;)’



◎わが国のマスクの歴史を紐解くと、神事の際に神職が着ける口覆くちおおい(写真左)というものがありました。これは神様に息がかからないようにするもので、和紙で出来ています。もちろんウイルスなどに効果はありません。



◎本格的に開発されたマスクは大正時代に考案された「工場マスク」という工場内の粉塵よけとして、真ちゅうの金網に布地をフィルターとして取り付けられたものでした。その後昭和9年(1934)のインフルエンザ猛威を機に、流行と衰退を繰り返しながら高性能化が進み、ほぼ今の形になったのが昭和23年(1948)ごろからです。その昔は呼吸器と呼ばれていました。

◎医療従事者が使う**サージカルマスク**は、surgical「外科の、手術の」という意味です。**N95・KN95 マスク**は、米国労働安全衛生研究所の規格に合格した微粒子用マスクのことで、N95とは約0.3 μmの粒子径を95%以上ブロックできる規格です。気密性を保つためオーバーヘッドタイプのゴム紐を後頭部で固定するため、呼吸がしづらいようです。一般の人が使うことはないと思います。

### 正しく着けないと意味がない！

いまさらながらですが、推奨されている着用方法は、次のとおりです。①まず表裏を確認、ブリーツが下向きになる方を外側へ向け、②ノーズピースの中央に折り目をつけて、③ゴム紐を耳にかけ、ノーズピースを鼻の形に合わせ、④ブリーツを伸ばし鼻から顎まで覆うようする。⑤外すときはゴム紐を持って外す。

専門家でもマスクが下がって鼻を出している人がいますが、あれでは単なる伊達マスクです。着けるなら正しく着けましょう。

### マスクを歌いやすく「マスクの中の彗星」

指揮者の**足立さつき**さんが、口とマスクの間に空間を作り、

呼吸してもマスクが張り付かない器具を考案しました。名付けて「**彗星針金**」。

ビニール被膜針金の両端を彗星の軌跡のように丸め、マスクの内側に装着して用います。詳しくは「ソプラノ歌手足立さつき公式ページ」をご覧ください。



### マスクにフェイスシールド

指揮者の**奥寺由起子**さんの指導する合唱団では、三密を避け、マスクにさらにフェイスシールドもつけて練習に臨んでいます(写真下)。なかなかの重装備で大変だと思いますが、いつか外して自由に歌える日が来ることを願ってやみません。



### マスクは完全ではない

マスクの代わりにフェイスシールドを付けているケースもありますが、マスクはそもそも微粒子を通さないためのもので、フェイスシールドとは役割が違います。その点で飛散防止や遮蔽効果があるかどうかよく確認することをお勧めします。



さらに、マスクしているから大丈夫！などと安易に考えるのは危険です。普通のマスクだけでは100%の感染予防はできないことはご存知のとおりです。

面倒でも地道に手洗い、うがい、アルコール消毒で予防に心掛けましょう。からだの中から消毒するには、ビールも飲める**Mixer Mask**がおすすめです！